

『CSR報告書2010』を読み終えて

～ CSR活動のこれから～

暮らしや健康に役立つ製品の登場を願っている一人の生活者として、本報告書に対しての第三者意見を申し上げたいと思います。

まず、特集「改正薬事法の完全施行を受けて」では、2009年6月に行われた薬事法の大規模な改正後の取り組みが紹介されています。法改正の結果、それまで薬局でしか購入ができなかったOTC医薬品が、条件つきではあるもののコンビニやスーパーマーケットでも入手できるようになりました。必要とするOTC医薬品がより身近になり、消費者の利便性はいっそう高まった感があります。

そうした規制緩和が好ましい方向性であることは論を俟たない一方で、私たちはこれまで以上に医薬品の効果やリスクなどに敏感になってきています。そうした店頭での顧客意識の高まりと専門家による情報提供の質を考えた場合、店頭でのコンタクト・パーソンの役割がますます重要になってきています。こうした店頭環境の変化に対応するために、エスエス製薬が全国で定期的に開催している同社独自の「店頭学術セミナー」は地道な活動ながら、消費者に安心感を抱かせるひとつの要素になっています。内容的にも、セミナー出席者の約9割が「わかりやすさ」などの項目で5段階評価の4以上をつけているという点は高く評価できます。

次にステークホルダーとの関係作りの面での取り組みについて目を向けてみます。ここでひとつ気になった点は、CSR会計に関する記述です。CSR会計の考え方を導入し、そのデータを公表することは活動実態や取り組み状況を定量的に伝えるという点で理解はできるものの、読み手に何をメッセージとして伝えたいのかがわかりづらいように思います。

たとえば、顧客に対する活動費用が対前年比で8.9%増加していますが、それが良いことなのか悪いことなのかは、価値基準が示されていないと判断できません。CSR活動にかかった金額をコストと考えるのか、投資と考えるのか。コストであれば、それを増加させることはステークホルダーにとって好ましいことではないかもしれません。一方、投資と考えるのであれば、そのリターンをどう測定しているのかわかりたいところでしょう。もし今後もCSR会計の数値を公表するのであれば、読者の理解を助けるためにもKPI(主要業績評価指標)をもとにした量的な効果測定が必要です。いずれにせよ、CSR会計そのものがまだ制度として未整備だけでなく、そもそもCSRは経営の全体に関することでもあるのですから、エスエス製薬としてのCSR会計への明確な考え方が根底に見えるようにしてほしいと思います。

地域社会やコミュニティとの共生をめざす貢献活動については、大変わかりやすく紹介されています。報告書にある通り、社会貢献活動が重点的CSR活動として組織的に位置づけられていて、各事業所単位で計画的に遂行され、そして各社員の方々が高い意識で積極的に取り組まれている様子がうかがえます。地域社会との良好な関係を強化するだけでなく、社員のモチベーションを高め、チームとしての連帯意識を強めることにつながるこのような取り組みは、規模の大小を問わず継続的に実施していただきたいと思います。

環境保全への取り組みは、具体的な行動内容とその成果がはっきり示されており、大変信頼性の高い情報公開がなされています。またわかりやすさの点でも、図やグラフを多用するなどさまざまな工夫がなされており、リーダー(読者)・フレンドリーにまとめられている印象を受けました。

以上、今回の報告書をもとに、エスエス製薬のCSRへの取り組みの中から印象的だったいくつかのポイントに関して意見を述べました。

最後に一言。CSRという概念は、経営に関する一過性の手法やテクニックではないので、今後も地道に、長期的な視点で全社的に取り組まれることを期待しています。その際、CSRの活動領域を2つに大別する考え方があります。ひとつは企業倫理やコンプライアンスについての活動と環境保全に関する施策であり、もうひとつはエスエス製薬ならではの社会に対する種々の積極的な貢献・福祉活動です。

前者は、企業が存続するために不可欠な基本的な諸活動です。一方、後者は、企業としてどうしてもやらなければならないというものではないだけに、そこからは個々の企業の個性が浮かび上がってきます。だからこそ重要な活動であると考えられます。そこで会社からの押しつけやおざなりではない真に社員主導のさまざまな活動が広がっていくためには、社内に向けた適切な働きかけ、すなわちインターナル・マーケティングが必要です。今後、取り組んでいってほしいと考える領域のひとつです。



早稲田大学大学院商学研究科
教授

木村 達也

早稲田大学商学部卒。英ランカスター大学大学院(MBA)修了。学術博士(早稲田大学)。早稲田大学マーケティング戦略研究所所長。大手広告会社勤務の後、外資系航空会社、消費財メーカーのブランドマネジャー、プロダクトマネジャーなどを経て現職。



取締役 財務管理本部長
上田 潔

エスエス製薬が担う社会的責任とCSR活動

私たちエスエス製薬には、皆様の健康を守る製品を提供している企業としての社会的責任があります。これを果たしていくには、透明性のあるマネジメントの実行を基本に、社会の一員としての幅広い社会貢献が必要です。当社は「CUP FOR TWO」への支援や献血などの活動はもとより、エネルギー使用量の削減や資源の有効活用など、環境活動にも積極的に取り組んでまいりました。昨年10月には、成田工場が「リデュース・リユース・リサイクル(3R)推進功労者等表彰」で厚生労働大臣賞を受賞。また、本年は地球環境大賞の「日本経済団体連合会会長賞」という名誉ある賞を受賞し、成果が高く評価されました。今後は、環境・社会共存型企業をめざして社会的責任を果たしてまいります。